

年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>設備管理及び機械警備・人的警備、昇降機の保守点検等、事業計画に沿って適切に行われている。また、女子トイレウォシュレット部品交換修繕等の修繕業務を合計10件行い、施設の適切な維持管理に努めている。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>令和4年度の来館者総数は202,136人(前年度 191,275人)、そのうち展覧会観覧者数は5つの展覧会合計80,282人(前年度 77,160人)で、事業計画で設定した目標値の来館者総数300,000人(5年間で150万人)は下回ったものの、未だに新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続くなかで、前年度よりも多くの人々が文化芸術に触れる機会を創出できたことは評価できる。</p> <p>また、展覧会関連事業の参加者数は2,706人(前年度 1,877人)、交流事業の参加者数は22,432人(前年度 16,126人)となり、どちらも増加した。連携事業については、前年度4,486人から1,136人に減少したが、静岡科学館及び静岡音楽館と共に実施している3館連携事業では各館の専門性を活かした事業を展開することができた。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>展覧会事業、展覧会関連事業、交流事業及び連携事業について、感染症対策を重ねながら極力開催することによって、施設理念である「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」の継続に努めた。</p> <p>① 展覧会事業</p> <p>展覧会事業では、日本美術から西洋美術、絵本やグラフィックなどといった、年間を通じて幅広い分野の展覧会を5本開催した。</p> <p>「スイス プチ・パレ美術館展 花開くフランス絵画」では、まとまって来日するのは約30年ぶりとなるプチ・パレ美術館所蔵品を当館オリジナルの解説パネルを加え、印象派からエコール・ド・パリに至るフランス近代美術の流れを分かりやすく解説した。</p> <p>「ボストン美術館所蔵 THE HEROES 刀剣×浮世絵—武者たちの物語」では、ボストン美術館の武者絵や刀剣に加え、国宝・重要文化財を含む国内所蔵の名刀を静岡会場限定として展示した。英文サイト、静岡県内の武者絵ゆかりの地を紹介する動画及び鑑賞ガイド等を制作し、事業内容を拡充して行ったことは評価できる。</p> <p>「出版120周年 ピーターラビットTM展」では、英国から借用した原画や絵手紙等、貴重な作品及び資料を170点紹介する良質な内容となった。音声ガイドやフォトスポット等も好評となり、高い評価を得た。</p>	

「杉浦非水 時代をひらくデザイン」では、日本のグラフィック・デザイン黎明期を代表する杉浦非水の作品と資料を合わせて300点以上展示し、表現の魅力と共に時代の諸相を伝えた。ミュージアムショップ・カフェや近隣店舗との連携も好評となった。

「東海道の美 駿河への旅」では江戸時代の東海道をテーマに屏風や小襖など約80件におよぶ駿河の美術や文化を紹介した。本展は静岡ゆかりの美術作品の調査研究に基づく自主企画であり、静岡市美術館だからこそできる展覧会となった。コロナ禍のため令和元年度から延期となったが、時期が変更されたために出品が追加されたものもあり、内容がより充実した点も評価したい。

② 展覧会関連事業

展覧会の内容と合わせて各分野のスペシャリストである講師の講演会、静岡市美術館学芸員によるスライドトーク等を実施した。「美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目標とする」という静岡市美術館の設置目的が達成できている。

③ 交流事業

Shizubi シネマアワー、しずびオープンアトリエ、しずびチビッコプログラム、各種ワークショップシリーズ等の交流事業は、一部新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったものの、その多くを開催することができた。

開催した事業の中には、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となっており、ようやく実施できた「柿木原さんとタイルで美術館のロゴマークをつくろう！」もある。これは静岡市美術館 10 周年を記念し、静岡市美術館のヴィジュアル・アイデンティティを手がけたデザイナーの柿木原政宏氏を講師に迎え、美術館のロゴマークをタイルで公開制作する参加型のワークショップであり、市民の美術に対する興味・関心を喚起する機会として有意義なものとなった。

また、交流ゾーンの開放的な空間を活かして誰でも美術作品を鑑賞することができる「Shizubi Project」の実施のほか、初めての取組みとして「おうちで！しずびオープンアトリエ」という動画配信プログラムを実施した。春の「しずびオープンアトリエ」の内容を自宅でも楽しむことができる動画の配信及び貸出キットを提供し、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中でも市民が美術に触れることができる事業を新たに実施したことは大いに評価できる。

④ 連携事業

3 館連携事業では、静岡科学館及び静岡音楽館と連携し、各館の専門性を活かした事業を開催することができている。特に「ピーターラビット」展の関連事業として静岡音楽館と連携して実施したミュージアム・コンサートでは、「静岡の名手たち」合格者を起用したリコーダーと朗読のコンサートを行い、チケットが完売する人気事業となった。美術と音楽という異なる文化芸術の組み合わせによって魅力を多方面から紹介できたことは、まさに連携の成果だと評価できる。今後も様々な分野で連携しながら、幅広い層に対し、美術への関心を広げていってほしい。

展覧会の観覧者数及びその他事業の参加者数は下記のとおり。

① 展覧会事業

展覧会名	観覧者数	目標	達成率
スイス プチ・パレ美術館展 花開くフランス絵画	19,755人	23,000人	85.9%
ボストン美術館所蔵 THE HEROES 刀剣×浮世絵―武者たちの物語	17,412人	30,000人	58.0%
出版120周年 ピーターラビットTM展	24,780人	30,000人	82.6%
杉浦非水 時代をひらくデザイン	11,440人	15,000人	76.3%
東海道の美 駿河への旅	6,895人	13,000人	53.0%

② 展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	65回	1,411人
展示解説	19回	479人
講演会、スライドトーク等	18回	957人

③ 交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubiシネマアワー	2回	206人
暦とあそぶワークショップ	2回	24人
プレゼントワークショップ	3回	56人
しずびチビッコプログラム（1回中止）	3回	44人
しずびオープンアトリエ	1回	102人
おうちで！しずびオープンアトリエ	1回	41人
Shizubi Project 8 世界は生きている 松藤孝一	1回	21,818人
Shizubi Project 8 アーティストトーク	1回	55人
参加型公開制作「柿木原さんとタイルで美術館のロゴ マークをつくろう！」	1回	113人

④ 連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業等	17回	1,117人
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業	2回	73人

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

施設内に設置している「利用者の声」アンケートの他に、展覧会観覧者に対して事業ごとにアンケートを実施しており、意見・要望を積極的に取り入れる体制が整えられている。また、来館者からの意見・質問苦情等の情報共有の徹底に努め、すぐには解決が困難な要望に対しても前向きに検討し、良好な対応がとられているといえる。

〔具体的な意見・要望と対応状況〕

意見等：スリッパの貸出があり、靴音が気にならず安心して歩くことができた。

対 応：展示室内では靴音が響きやすい状態となっており、快適に作品を楽しめるようにスリッパの貸出を行っている。今後も貸出を続けるとともに、靴音が響きにくくなる修繕の実施に向けて検討を続ける。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

（1）利用者満足度調査

展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートを実施し、満足度調査を行っている。各展覧会の満足度調査では、年間平均において95.5%が「満足・ほぼ満足」と回答しており、目標の85%を大きく上回り来館者の期待に応えることができたといえる。

- ・「スイス プチ・パレ美術館展 花開くフランス絵画」94.8%（回答数：535）
- ・「ボストン美術館所蔵 THE HEROES 刀剣×浮世絵—武者たちの物語」96.9%（回答数：707）
- ・「出版120周年 ピーターラビットTM展」96.5%（回答数：1,238）
- ・「杉浦非水 時代をひらくデザイン」96.9%（回答数：512）
- ・「東海道之美 駿河への旅」90.0%（回答数：448）

（2）市民アンケート

令和4年度に（公財）静岡市文化振興財団が指定管理者となっている文化施設等で実施した市民アンケートによると、静岡市美術館の認知度は71.2%、利用度は39.6%となっており、前年度（認知度51.1%、利用度33.9%）と比べて増加している。更なる認知度・利用度向上のため、JR静岡駅前という立地を活かし、引き続き積極的な広報活動や魅力的な事業展開を期待する。

（3）その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。いずれの項目も「満足」「ほぼ満足」の合計割合は前年度と比べると減少しているが、例年通り高い割合となっている。静岡市美術館では展覧会観覧者に対して事業ごとのアンケートも実施しているため、「利用者の声」の回答数が少ない点については改善に向けての工夫が必要だと考えられる。回答結果は下記のとおり。

- | | | |
|---|-----------|-----------------|
| ① | 職員の応対 | 79.3%（前年度91.6%） |
| ② | 清掃、整理整頓 | 89.7%（前年度95.8%） |
| ③ | 案内表示、掲示板 | 89.7%（前年度95.8%） |
| ④ | 開館日・開館時間 | 79.3%（前年度95.8%） |
| ⑤ | 空調・音響・照明等 | 89.7%（前年度91.6%） |

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を除いては、概ね予算のとおり執行されている。

また、開催した展覧会において、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めており、非常に良好な状況である。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

《新型コロナウイルス感染症への対応》

新型コロナウイルス感染症への対応については、国等のガイドラインに沿った適切な対策を講じており、速やかにホームページへ掲出を行う等、適切な時期・方法により行われている。

事業については、コロナ禍を踏まえた手法を検討して実施しており、「しずびオープンアトリエ」の内容を自宅でも楽しむことができる動画の配信及び貸出キットを提供する初めての取組みを行うなど、指定管理者の創意工夫が見られた。

令和4年度の総入館者数は202,136人となり、新型コロナウイルスによる影響を除けば、中心市街地に立つ美術館として、文化を通じた街の賑わいの創出に寄与し、「芸術文化の交流拠点」としての役割を果たしていると評価できる。

施設の維持管理業務に関しては、事業計画に従い各種点検業務や館内清掃業務等が滞りなく実施されている。

事業については、展覧会事業を柱として関連事業及び交流事業、連携事業を積極的に行っている。特に美術作品の調査研究に基づく自主企画は、静岡市美術館としてこれまでに蓄積してきた力を存分に発揮した静岡市美術館ならではの展覧会となっており大いに評価できるほか、充実した展覧会事業は観覧者の満足度も非常に高くなっている。3館連携事業では、静岡市美術館に初めて来館するきっかけとなっているほか、静岡市美術館を訪れた方が静岡科学館や静岡音楽館を訪れることもあり、中心市街地の回遊性を高めると同時に賑わいの創出にも貢献している。

また、年間を通じて、事業内容の充実のみならず、常に幅広い層への広報手段を検討し、新しい取組も積極的に実施していることを評価したい。アフターコロナ時代の「芸術文化の交流拠点」として、今後もより多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信し、人々が芸術文化の魅力に触れることができるよう様々な工夫を行っていくことを期待する。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。